

2021年4月5日掲載 輸送新聞

80周年迎え次なる飛躍を

コロナ禍でも改革実現

現場の努力に敬意

この3月に創立80周年を迎えた第一貨物。コロナ禍において取り組みださまざまな改革と21年度の抱負などを、米田総一郎社長に聞いた。

聞き手 本紙編集委員・上原里智男



第一貨物(株)
代表取締役社長
米田総一郎氏

―社長就任以来の取り組みは。

まずはコロナ禍の真最中でしたから、7月以降の修正計画を策定しました。計画では当初、特積み部門で前年同期比10%の物量減と

―同時に「週2休制」も導入しました。それまでは土曜日を交替しながら休む形で4週6

必ずしも休みにしないという点です。土曜日の集配ニーズに引き続

き心えていきながら4週8休制を実現するため、まずはお客さまの理解・協力を得て、土曜日の集配を金曜日や翌週月曜日に移せないか伺いました。そうして土曜日の業務量と出社人数を減らした上で、土曜日に勤務する社員が平日に休んでも、誰かがカバーできる体制を構築したので

―同時に生産性も挙げていかなければいけませんから、簡単な話ではありませんでした。実際の物量減は8%

強ほどになっていったのですが、集配ドライバー1人当たりの取扱量は3%増と逆に増えています。取り組みの結果として生産性向上の成果も現れており、難しいミッションを達成したと考えています。

まだまだ甘いところもありますが、社員の意識改革も進んだと思いますし、週2休制への移行はスムーズに行われたと思います。

計画を完遂して利益を出すためには、各部署に浸透させる必要がありますから、全6支

その後は、できるだけ多くの社員に私自身の思いを直接伝えたいので、事業所の臨店を行っています。全68事業所のうち、現在までに62事業所を回りました。

当初は修正計画がドラスティックだったこともあって、正直現場

米田社長インタビュー、次頁に続く

インタビュー

2